

交通安全対策

令和6年8月22日

国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所
山梨県 県土整備部

目次

1. 委員会の経緯と今回の論点	2
2. 前回委員会(第27回)の振り返り	6
3. 第2次事故ゼロプランについて	8
4. 経過観察箇所の評価結果	22
5. 今後のスケジュール	24

1. 委員会の経緯と今回の論点

1. 委員会の経緯と今回の論点

1-1 委員会における事故ゼロプランの検討経緯

- 事故ゼロプランは平成22年度にスタートし、平成25年度に事故危険区間の見直しを実施。
- 取組み開始から約10年が経過し道路交通環境や社会情勢が変化したため、**これらを考慮した第2次事故ゼロプラン区間を令和3年度に選定。**

事故ゼロプラン
スタート

事故危険区間
見直し

取組み開始から
約10年経過

第2次事故ゼロ
プラン区間選定

開催年度	協議内容	委員会開催時
平成22年度	新たな箇所選定の実施方針の検討	第7回委員会 (H22.9.30)
	パブリックコメントの実施	(H22.10.10～10.31)
	事故危険区間の選定(168区間) (第1次事故ゼロプラン)	第8回委員会 (H22.12.2)
平成23年度	事故危険区間の対策実施状況の報告 事故危険区間の見直し方法及び新規追加箇所(3区間)の確認	第9回委員会 (H23.12.21)
平成24年度	新たな事故危険区間(追加箇所)の選定方法の確認 パブリックコメント実施方法の確認	第10回委員会 (H24.6.29)
	関係機関ヒアリングの実施 ※通学路点検含む	(H24.7.上旬～11.中旬)
	パブリックコメントの実施	(H24.11.5～11.25)
	新たな事故危険区間(追加箇所)の中間報告	第12回委員会 (H24.12.20)
平成25年度	パブリックコメント等を踏まえた新たな事故危険区間(追加箇所)の選定(408区間) A群・B群・C群の結果報告、通学路点検箇所・事故危険箇所	第13回委員会 (H25.6.18)
平成26年度 ～ 平成28年度	事故危険区間の追加箇所の確認 (14回委員会:4区間、15回委員会:7区間、16回委員会:42区間) 事故危険区間の事業進捗状況の報告	第14回委員会 (H26.8.25) 第15回委員会 (H27.9.30) 第16回委員会 (H28.7.28)
平成29年度	H29事故危険区間の追加箇所の確認(5区間) 事故危険区間の事業進捗状況の報告 事故危険区間の対策完了の判断基準(案)の審議	第17回委員会 (H29.7.27)
平成30年度	H30事故危険区間の追加箇所の確認(3区間) 事故危険区間の対策完了の判断基準に基づいた対策完了箇所の検討	第18回委員会 (H30.7.26)
	事故危険区間の事業進捗状況 新規対策検討箇所の事例紹介	第19回委員会 (H31.3.15)
令和元年度	事故危険区間の対策効果の確認 事故危険区間の対策完了判断基準の見直し	第20回委員会 (R1.8.2)
令和2年度	事故ゼロプランの取組方針の見直し 新たな事故危険区間の選定(319区間)(案)	第21回委員会 (R2.8.27) 第22回委員会 (R3.3.24)
令和3年度	第2次事故ゼロプラン区間の選定(377区間)	第23回委員会 (R4.3.24)

1. 委員会の経緯と今回の論点

1-1 委員会における事故ゼロプランの検討経緯

- 本年度も継続して、第2次事故ゼロプランを推進していく。

第2次事故
ゼロプラン
スタート



開催年度	協議内容	委員会開催時
令和3年度	第2次事故ゼロプラン区間の選定(377区間)	第23回委員会(R4.3.24)
令和4年度	R4事故危険区間の追加箇所の確認 (24回委員会:6区間、25回委員会:1区間)	第24回委員会(R4.8.24) 第25回委員会(R5.3.14)
令和5年度	R5事故危険区間の追加箇所の確認(3区間) 第2次事故ゼロプランの評価フローについて一部見直し	第26回委員会(R5.9.1) 第27回委員会(R6.3.15)

1. 委員会の経緯と今回の論点

1－2 今回の論点

- 今回は大きく1項目の報告事項と2項目の審議事項があり、以下の通り。

2. 前回委員会(第27回)の振り返り

報告1

- ・ 前回委員会の開催概要と主な意見

3. 第2次事故ゼロプランについて

審議事項1

- ・ 第2次事故ゼロプランの効果評価について

4. 経過観察箇所の評価結果

審議事項2

- ・ 第1次事故ゼロプランのうち対策後4年経過した箇所の 第2次事故ゼロプランへの追加の要否の確認

2. 前回委員会(第27回)の振り返り

2. 前回委員会(第27回)の振り返り

2-1 前回委員会の開催概要

第27回委員会

<開催日時>

令和6年3月15日(金) 10時～

<場所>

山梨県立図書館(多目的ホール)

<主な審議事項(交通安全対策)>

- 第2次事故ゼロプラン評価フローの見直し



第27回委員会の実施状況

■主な意見

【ご意見】インバウンドも含め観光客が戻ってきている状況。

観光地での事故や電動キックボードの利用状況について、今後も注視して安全対策を進めていければよいと思う。

⇒今後も継続してモニタリング

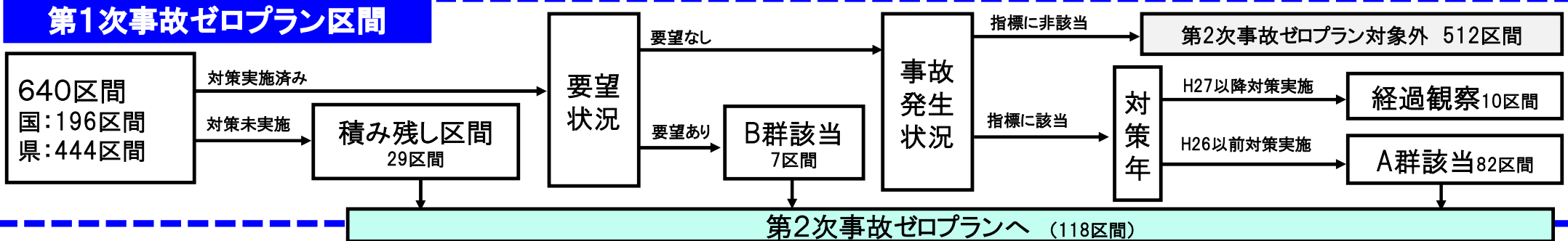
3. 第2次事故ゼロプランについて

3. 第2次事故ゼロプランについて

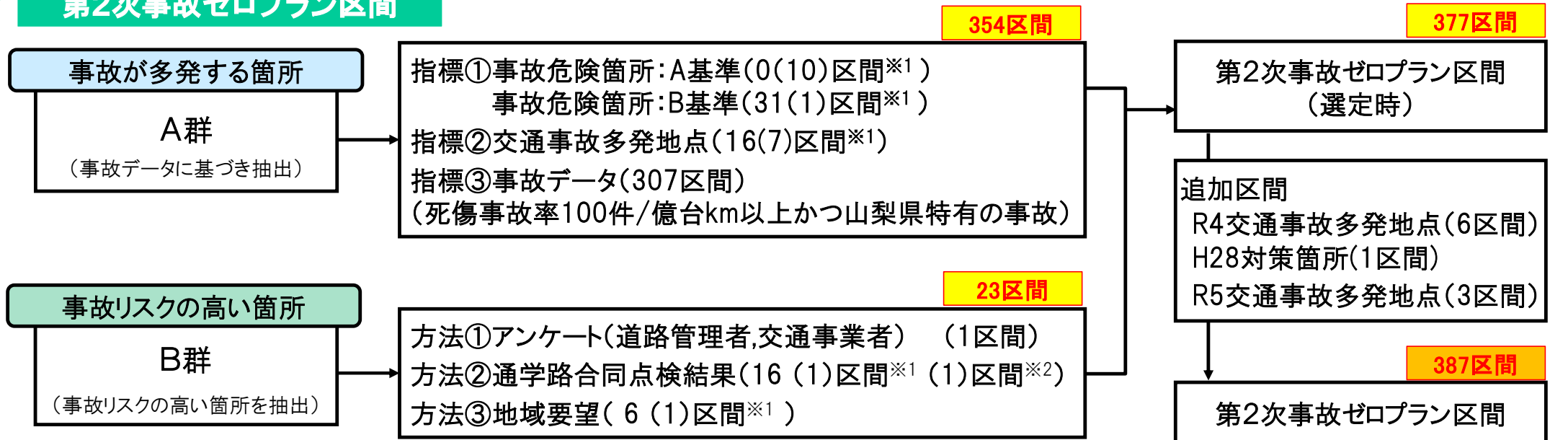
3-1 第2次事故ゼロプランの概要（振り返り）

- 第23回委員会において、第2次事故ゼロプラン区間として377区間の選定を承認頂いた。
- 第24回委員会において「令和4年度交通事故多発地点」である6箇所を第2次事故ゼロプランに追加することを承認頂いた。
- 第25回委員会において、H28に対策を実施し経過観察となっていた区間から、選定指標に該当した1箇所を第2次事故ゼロプランに追加することを承認頂いた。
- 第26回委員会において、「令和5年度交通事故多発地点」である3箇所を第2次事故ゼロプランに追加することを承認頂いた。

第1次事故ゼロプラン区間



第2次事故ゼロプラン区間



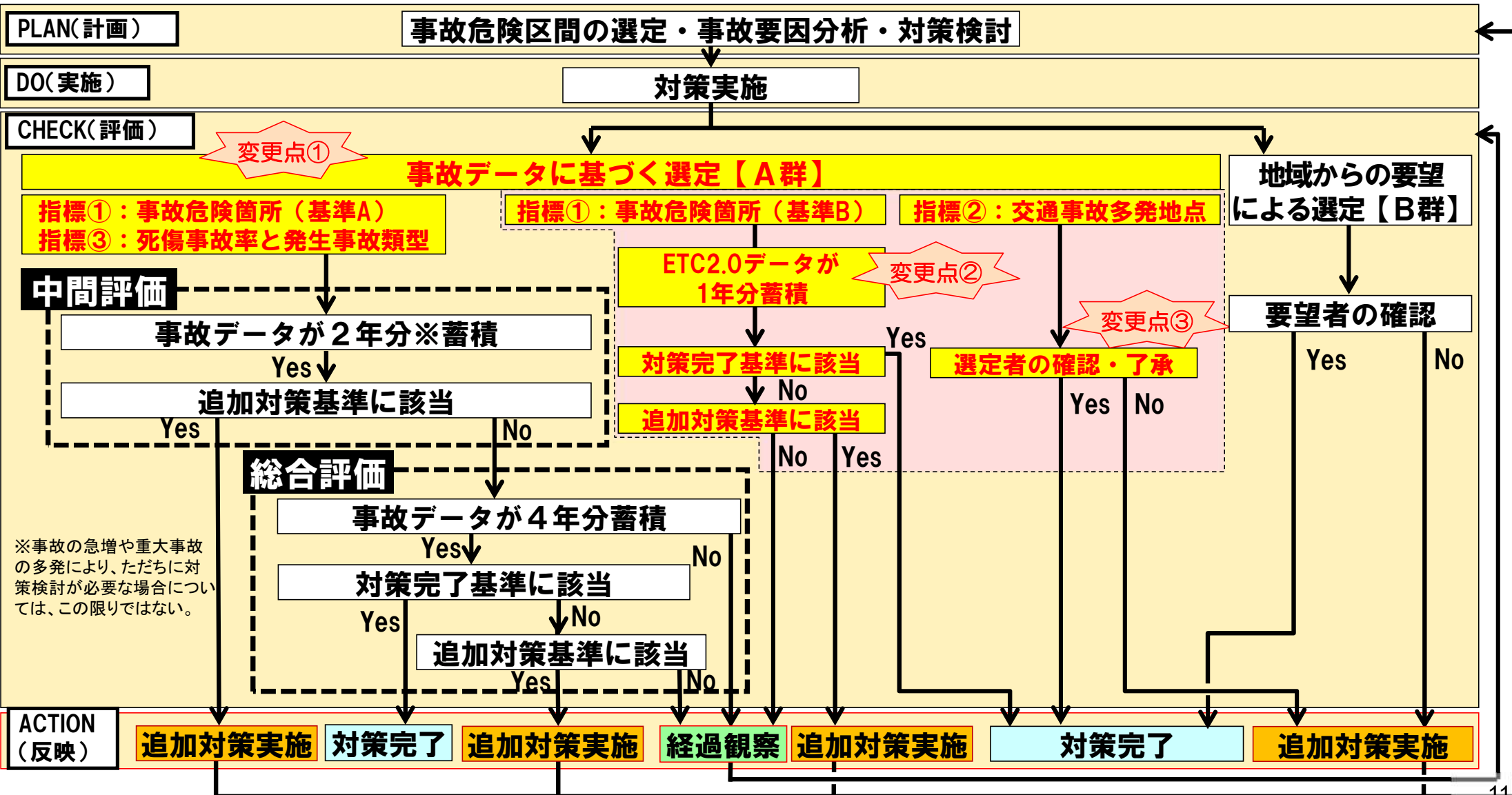
※1) 括弧内の数字は、A群指標③内の重複区間数

※2) 括弧内の数字は、A群指標①内の重複区間数

3. 第2次事故ゼロプランについて

3-2 第2次事故ゼロプランの評価フローについて（振り返り）

- 第21回委員会にて、A群を対象に事故データが2年分、4年分蓄積された段階で中間評価・総合評価を実施するフローが承認された。
- 様々な理由で選定された箇所が、A群として事故件数により評価される枠組みとなっていたため、**選定理由に合わせた評価指標を再設定**。
- 選定指標ごとに細分化した評価フローを第27回委員会にて審議し、承認された。



3. 第2次事故ゼロプランについて

3-3 今年度の評価対象について

- 対策実施完了年度や事故データの蓄積状況等から、44区間が今年度の評価対象となった。
- A群（事故データ）では、ETC2.0による評価：3区間、交通事故多発地点：16区間、中間評価：9区間、総合評価：1区間
B群（要望等）では、15区間が評価対象となった。

■評価対象（1/3）

連番	管理者	箇所名	対策実施年度	選定指標	選定理由	効果評価
1	県	甲州市塩山上萩原～塩山上萩原	R2年度	【A群】指標① 事故危険箇所（基準A・B）	事故危険箇所 基準B(ETC2.0)	ETC2.0による評価
2	県	南アルプス市鏡中條～鏡中條	R2年度			
3	県	上野原市新田1062(上野原インター入口交差点)	R4年度			
4	国	南アルプス市十日市場(南アルプスIC西交差点)	R3年度	【A群】指標② 交通事故多発地点	交通事故多発地点	選定者の確認・了承 ▶確認済みのため対策完了
5	国	身延町下山(上沢交差点)	R2年度			
6	国	切石駐在所入口交差点～身延町寺沢34-3先	R3年度			
7	国	富士川町青柳町1037-1(富士川大橋西交差点)	R4年度			
8	県	三郷町(青洲橋東詰交差点)	R3年度			
9	県	蛭見橋西詰交差点～河内東交差点	R4年度			
10	県	重川橋北交差点	R5年度			
11	県	甲斐市西八幡(開国橋東詰交差点東側横断部)	R3年度			
12	県	笛吹市石和町東高橋97((仮)梅之木橋南交差点)	R5年度			
13	県	貢川小南交差点	R4年度			
14	県	甲州市塩山上萩原4783-53	R4年度			
15	県	南都留郡富士河口湖町川口地内国道137号谷抜トンネル付近	R4年度			
16	県	中下条交差点北方約70m丁字路交差点	R5年度			
17	県	甲府市愛宕トンネル元紺屋側出口付近～元紺屋交差点	R2年度			
18	県	下今井三差路 東側丁字路交差点	R1年度			
19	県	下今井三差路交差点東側丁字路交差点	R2年度			

効果評価の
方針を報告・審議
p.20～

3. 第2次事故ゼロプランについて

3-3 今年度の評価対象について

- 対策実施完了年度や事故データの蓄積状況等から、44区間が今年度の評価対象となった。
- A群（事故データ）では、ETC2.0による評価：3区間、交通事故多発地点：16区間、中間評価：9区間、総合評価：1区間
B群（要望等）では、15区間が評価対象となった。

■評価対象（2/3）

連番	管理者	箇所名	対策 実施 年度	選定指標	選定理由	効果評価
20	国	都留市桂町1134～(仮)東桂歩道橋交差点	R1年度	【A群】指標③ 死傷事故率と発生事故類型	事故データ・事故多発	中間評価
21	国	南部町福士((仮)富沢IC入口交差点)	R2年度		事故データ	
22	県	富士吉田市ときわ台2丁目7～ときわ台2丁目2-14	R1年度			
23	県	富士吉田市ときわ台2丁目(仮)富士急ハイランド駅東交差点)	R1年度			
24	県	甲州市勝沼町休息(子安橋北詰交差点)	R2年度			
25	県	上野原市柁原9223～柁原10082	R1年度			
26	県	山中湖村平野～平野(パノラマ台前後のカーブ区間)	R2年度			
27	県	南都留道志村1107(H28対策済経過観察箇所)	R2年度			
28	県	丹波山村所畑～高畑	R1年度			
29	県	韮崎市中田町小田川1341(相埓交差点)	H30年度			
						総合評価

効果評価の結果を報告
P.15～

3. 第2次事故ゼロプランについて

3-3 今年度の評価対象について

- 対策実施完了年度や事故データの蓄積状況等から、44区間が今年度の評価対象となった。
- A群（事故データ）では、ETC2.0による評価：3区間、交通事故多発地点：16区間、中間評価：9区間、総合評価：1区間
B群（要望等）では、15区間が評価対象となった。

■評価対象（3/3）

連番	管理者	箇所名	対策 実施 年度	選定指標	選定理由	効果評価
30	国	上野原市上野原(上野原郵便局前単路)	R3年度	【B群】 アンケート 通学路合同点検結果 地域要望	要望等	要望者の確認をもって完了判断 ▶確認済みのため対策完了
31	国	上野原市松留(悉聖寺交差点)	R4年度			
32	国	笛吹市一宮町(石交差点)	R4年度			
33	国	都留市古川渡(古川渡交差点)	R4年度			
34	国	都留市法能(都留BP1.26kp付近)	R4年度			
35	国	都留市法能(都留BP1.56kp付近)	R4年度			
36	国	南アルプス市百々(百田保育所東交差点南側単路)	R4年度			
37	国	韮崎市円野町(上円井交差点)	R4年度			
38	国	大月市猿橋町(猿橋小入口交差点)	R4年度			
39	国	大月市大月町花咲(西方寺入口交差点)	R4年度			
40	国	山中湖村山中(山中湖西交差点)	R4年度			
41	国	山中湖村山中(明神前交差点)	R4年度			
42	国	西桂町小沼2744(信号無交差点)	R5年度			
43	国	西桂町小沼1499～小沼1308	R5年度			
44	県	南アルプス市上高砂(信玄橋西詰交差点)	R5年度			

3. 第2次事故ゼロプランについて

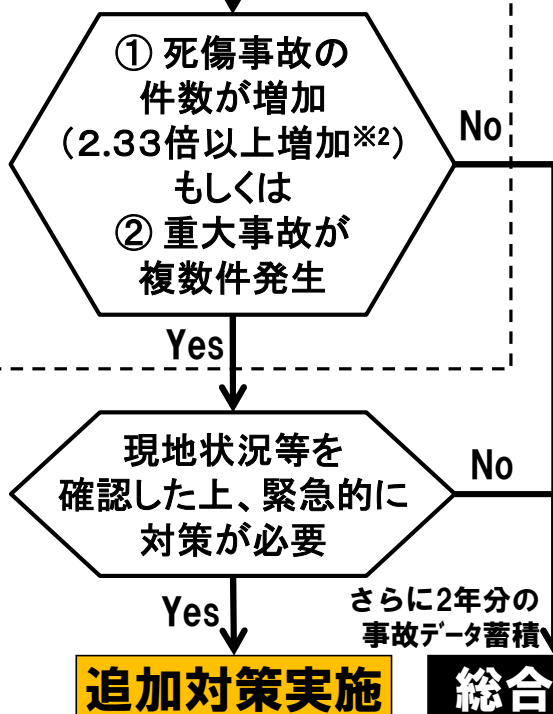
3-4 中間評価について（振り返り）

- A群では、対策実施後において、追加対策の要否を早い段階で確認するため、「中間評価」を実施。
- 中間評価は、事故データが2年分ある箇所について、追加対策検討が必要となる基準を設定し評価。
- 事故発生に関連する選定指標である、指標①事故危険箇所（基準A）、指標③死傷事故率・発生事故類型 を対象に実施する。

■中間評価手法

事故データが2年分※1あり【A群】
対象: 選定指標①(基準A)
選定指標③

追加対策基準



対象とする選定指標

■指標①：事故危険箇所（基準A）

選定項目・指標	選定基準
基準A 死傷事故率	100件/億台km以上かつ
重大事故率	10件/億台km以上かつ
死亡事故率	1件/億台km以上

■指標③：死傷事故率と発生事故類型

選定項目・指標		選定基準 (案)
死傷 台事故率 100件 以上かつ /	死傷事故	16件/4年以上
	重大（死亡）事故	1件/4年以上
	正面衝突事故	1件/4年以上
	車両単独事故	1件/4年以上
	歩行者事故	2件/4年以上
	自転車事故	4件/4年以上
	二輪車事故	3件/4年以上
	高齢者事故	6件/4年以上

対象外とする選定指標

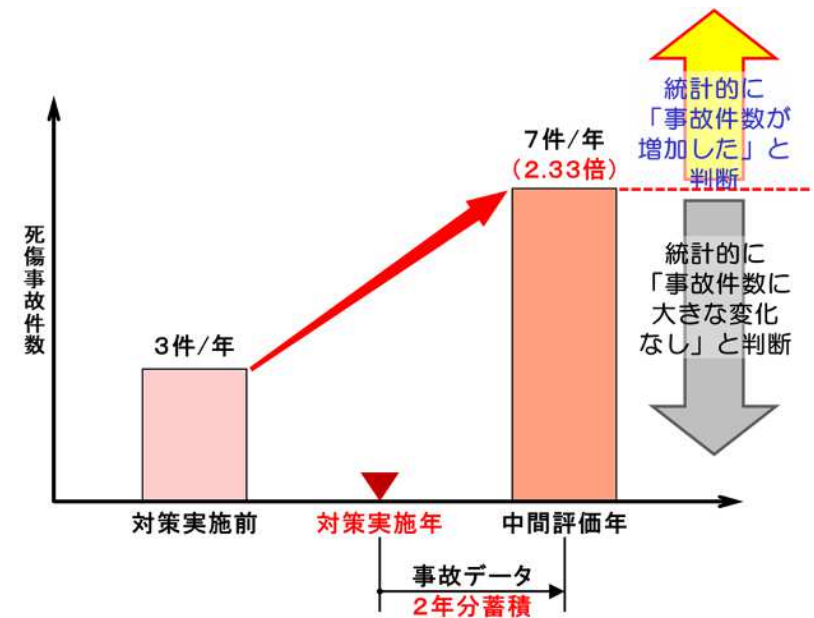
■指標①：事故危険箇所（基準B）

※1年分のETC2.0データを対象

■指標②：交通事故多発地点

※1年分の事故を対象

■死傷事故件数の増加判断のイメージ



※2) 中間評価における死傷事故件数基準の考え方

- ・中間評価に使用する事故データは2年分であり、偶発性が高い。
- ・交通事故がポアソン分布に従って発生するものとする、山梨県の事故ゼロプラン区間における平均事故件数(3件/年)において、統計的に事故が増加する(=減少していない)と判定される件数は7件/年以上。
- ・これより、2.33倍(⇒3件から7件)以上事故件数が増加した場合は、「事故が増加した」と判断。

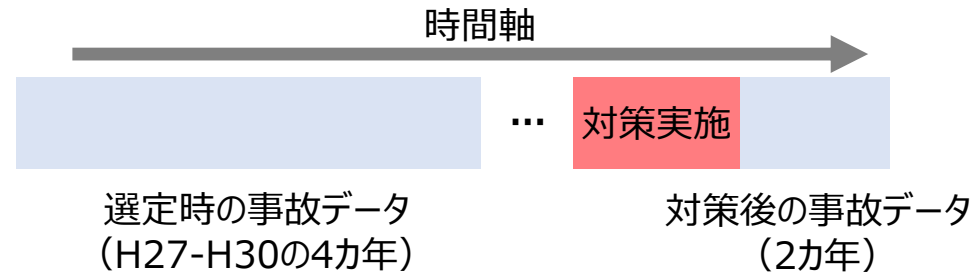
※1) 事故の急増や重大事故の多発により、ただちに対策検討が必要な場合については、この限りではない。

3. 第2次事故ゼロプランについて

3-4 中間評価について

- 今年度、事故データの蓄積により中間評価を実施できる9区間を対象に、追加対策基準の判定を実施。
- 評価の結果、**追加対策基準に該当する区間は0区間**となった。そのため、これらの9区間については**総合評価へ移行する**ものとする。

■評価期間



■評価結果

連番	管理者	箇所名	対策実施年度	選定指標	中間評価					
					①死傷事故件数			②対策後2年間の重大事故件数		判定
					選定時 (H27-30) (件/年)	対策後2年間 (件/年)	判定	対策後2年間 (件/2年)	判定	
1	国	都留市桂町1134～(仮)東桂歩道橋交差点	R1年度	【A群】指標③ 死傷事故率と 発生事故類型	2.5	1.0	基準クリア	0	基準クリア	総合評価へ移行
2	国	南部町富士((仮)富沢IC入口交差点)	R2年度		0.5	0.0	基準クリア	0	基準クリア	総合評価へ移行
3	県	富士吉田市ときわ台2丁目7～ ときわ台2丁目2-14	R1年度		1.5	0.5	基準クリア	0	基準クリア	総合評価へ移行
4	県	富士吉田市ときわ台2丁目(仮)富士急ハイランド駅 東交差点)	R1年度		0.5	0.0	基準クリア	0	基準クリア	総合評価へ移行
5	県	甲州市勝沼町休息(子安橋北詰交差点)	R2年度		1.75	0.0	基準クリア	0	基準クリア	総合評価へ移行
6	県	上野原市桐原9223～桐原10082	R1年度		1.0	0.0	基準クリア	0	基準クリア	総合評価へ移行
7	県	山中湖村平野～平野 (パノラマ台前後のカーブ区間)	R2年度		0.5	0.0	基準クリア	0	基準クリア	総合評価へ移行
8	県	南都留道志村1107	R2年度		1.5	0.0	基準クリア	0	基準クリア	総合評価へ移行
9	県	丹波山村所畑～高畑	R1年度		3.0	0.0	基準クリア	0	基準クリア	総合評価へ移行

**追加対策の要否の検討
0区間**

**総合評価へ移行
9区間**

3. 第2次事故ゼロプランについて

3-5 総合評価について（振り返り）

- A群のうち**指標①事故危険箇所（基準A）**、**指標③死傷事故率・発生事故類型**の総合評価では、上位計画の目標である「事故件数」で評価できるよう、「死傷事故件数」にて評価。併せて、対策の必要性の判断基準である「選定指標の基準」をクリアしているかどうかを確認。
- 対策完了とならなかった箇所は、追加対策検討の可否を評価し、「追加対策検討」と「経過観察」とに区分。

総合評価手法

事故データが4年分あり【A群】
対象:選定指標①(基準A)
選定指標③※1

対策完了基準

① 死傷事故件数3割※2以上削減
かつ
② 選定指標の基準※1クリア

No

Yes

対策完了

※2) 第10次山梨県交通安全計画の目標*

	[A] 事故ゼロ プラン時 (H22)	[B] 目標 (H32)	削減数 [B-A]	削減率 [B/A]
発生件数(件)	6,283	4,400 以下	1,883 以上	30.0% 以上
死者数(人)	49	30 以下	19 以上	38.8% 以上

* 次期交通安全計画が策定された場合、
削減率を再計算し、目標の見直しを実施

選定理由となった基準に
該当しなければクリア

※1) 選定指標の基準

選定項目・指標	選定基準 (案)
死傷事故	16件/4年以上
重大（死亡）事故	1件/4年以上
正面衝突事故	1件/4年以上
車両単独事故	1件/4年以上
歩行者事故	2件/4年以上
自転車事故	4件/4年以上
二輪車事故	3件/4年以上
高齢者事故	6件/4年以上

追加対策基準

① 死傷事故の件数が減少
かつ
② 重大事故件数1件以下

No

Yes

No

現地状況等を
確認した上、緊急的に
対策が必要

Yes

評価結果

経過観察

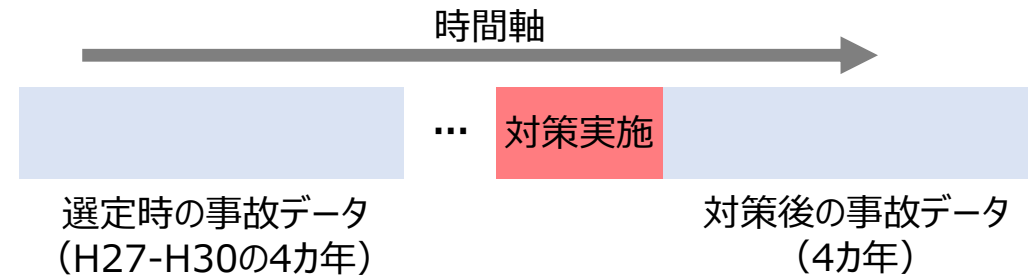
追加対策実施

3. 第2次事故ゼロプランについて

3-5 総合評価について

- 今年度、事故データの蓄積により総合評価を実施できる1区間を対象に、対策完了基準の判定を実施。
- 荏崎市中田町小田川1341（相埒交差点）^{あいぬた}： 対策完了基準から、**対策完了**と判断。

■評価期間



■評価結果

連番	管理者	箇所名	対策 実施 年度	選定指標	総合評価(対策完了基準)					
					①死傷事故件数			②選定指標の基準		判定
					選定時 (H27-30) (件/4年)	対策後4年間 (件/4年)	判定	対策後4年間の 死傷事故率 (件/億台キロ)	選定指標の基準	
1	県	荏崎市中田町小田川1341(相埒交差点)	H30年度	【A群】指標③ 死傷事故率と 発生事故類型	6	2	基準クリア	109.17	高齢者関与事故:0件	対策完了

**追加対策の要否の検討
0区間**

**対策完了
1区間**

3. 第2次事故ゼロプランについて

3-5 総合評価について

国道141号 荊崎市中田町小田川1341(相袋交差点) あいぬた

箇所概要

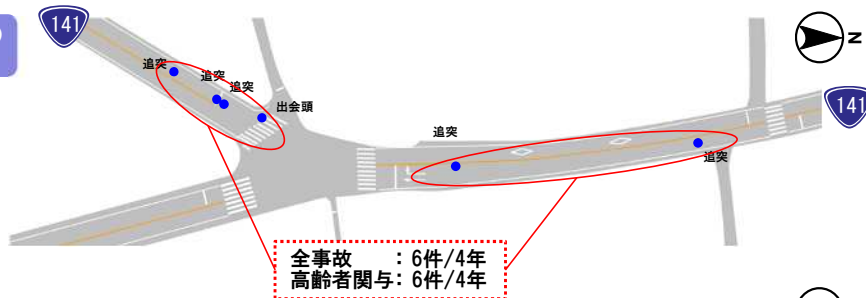


【路線】国道141号
【住所】荊崎市中田町小田川1341
【交通量※】12,904台/日

※R3道路交通センサス

主な事故発生状況

対策前(選定時)
(H27-H30)



対策後
(R1-R4)



対策概要

事故発生
状況

・交差点流入部(上下線)およびその付近で事故が6件(追突事故5件、出会い頭事故1件)発生
・発生した事故6件すべてが高齢者関与事故

事故発生
要因

・交差点各流入部に右折レーンが無い(北側は右折ポケットあり)、直進左折阻害により滞留が発生しやすい

方針
対策

・右折車と後続の直進車・左折車の動線を空間的に分離する

内容
対策

・右折レーンの新設

抽出指標

A.事故データに基づく抽出

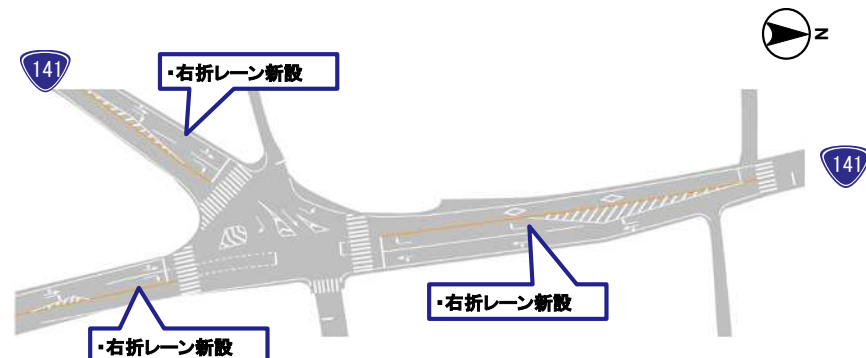
死傷事故率	
死傷事故	
死亡事故	
歩行者事故	
高齢者ドライバー事故	●
大型車事故	
自転車事故	
子供または高齢者事故	
休日事故	
DID地区出会い頭事故	
山地(単路部)正面衝突事故	

B.関係機関ヒアリング

C.道路利用者バブコメによる要望箇所

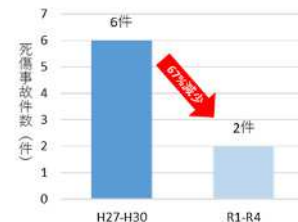
対策内容

H30対策



効果評価結果

事故の削減状況
判定①



⇒死傷事故件数
3割以上削減をクリア

指標該当状況
判定②

選定項目	対策後
死傷事故率	109.17件/億台キロ
高年齢者事故	0件/4年
死傷事故	
重大(死亡)事故	
正面衝突事故	
車両単独事故	
歩行者事故	
自転車事故	
二輪車事故	

⇒選定指標の基準
・死傷事故率100件/億台キロ以上
かつ
・高年齢者事故6件/4年以上
に非該当

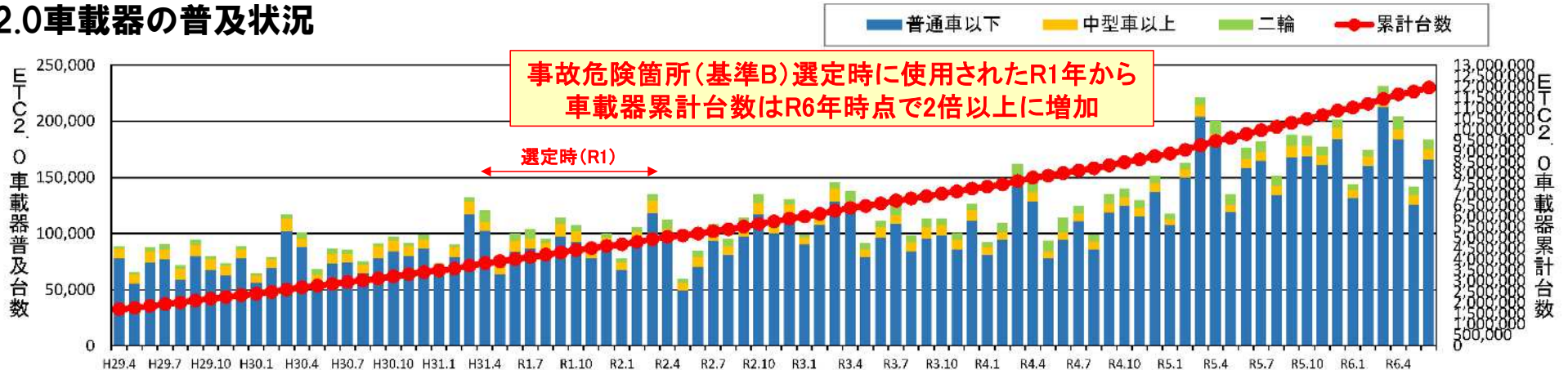
対策完了

3. 第2次事故ゼロプランについて

3-6 事故危険箇所（基準B）について

- 評価に使用するETC2.0のデータ期間については、データ取得数の増加を考慮し、対策前後の条件を揃えるため、直近のデータを用いる。
- 指標①：事故危険箇所（基準B）では、対策後の挙動発生状況等をETC2.0データにより分析し、改善が確認できれば対策完了とする。

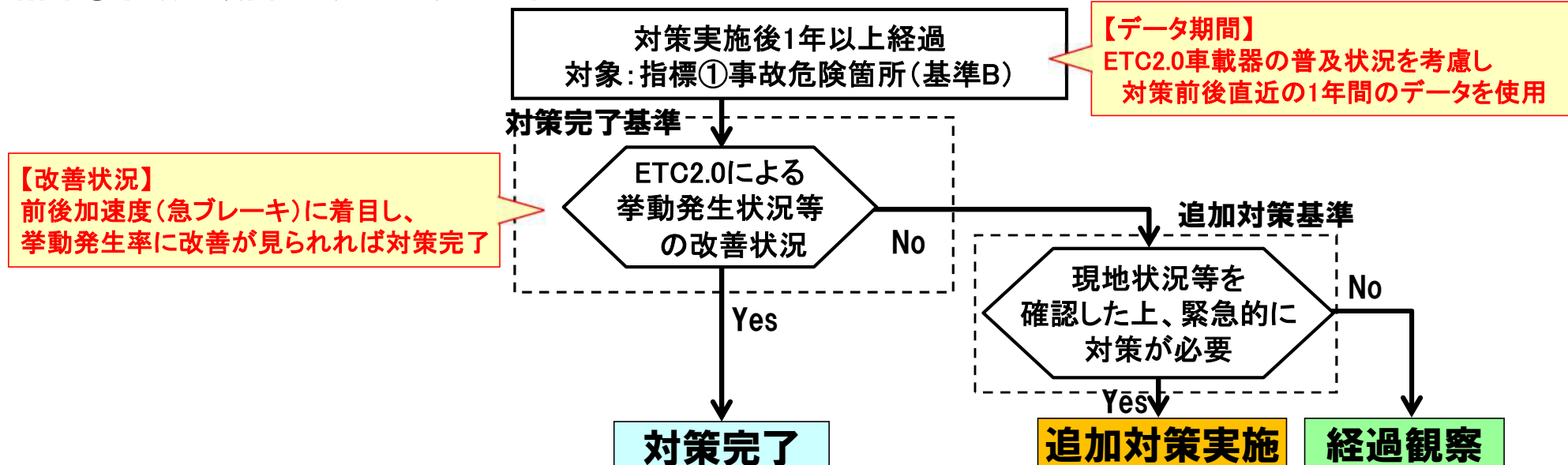
ETC2.0車載器の普及状況



※ETC2.0車載器普及台数は、
ETC2.0新規セットアップ台数にETC2.0再セットアップ済みDSRC車載器を加えた数

【出典】一般財団法人ITSサービス高度化機構 ETC総合情報ポータルサイト
https://www.go-etc.jp/fukyu/pdf/etc2setup_r06.pdf（R6.7時点）

指標①事故危険箇所（基準B）の評価手法



3. 第2次事故ゼロプランについて

3-6 事故危険箇所（基準B）について

- 今年度、評価対象となる3区間を対象に、ETC2.0データによる対策完了基準の判定を実施。急挙動発生状況に改善が確認されれば対策完了。
- 判定の結果、3区間について対策後に急挙動の発生状況に改善が確認されたため、**対策完了と判断**。

■評価結果

連番	管理者	箇所名	対策実施年度	選定指標	対策完了基準			
					急挙動発生回数(回/万台km)		対策後の急挙動変動率	判定
					対策前	対策後		
1	県	甲州市塩山上萩原～塩山上萩原	R2年度	【A群】指標① 事故危険箇所(基準B)	941	573	-39%	対策完了
2	県	南アルプス市鏡中條～鏡中條	R2年度		585	424	-28%	対策完了
3	県	上野原市新田1062(上野原インター入口交差点)	R4年度		573	244	-57%	対策完了

※選定時の抽出条件と整合させ、前後加速度-0.5G以下の急挙動（急ブレーキ）を対象に集計

追加対策の要否の検討
0区間

対策完了
3区間

4. 経過観察箇所の評価結果

4. 経過観察箇所の評価結果

4-1 対策後4年経過した箇所の評価結果

- 第1次事故ゼロプランのうち経過観察箇所であった下記の箇所について、対策後4年が経過した1箇所について状況の確認を行った。
- 確認を行った1箇所は、指標③の基準値である死傷事故率100件/億台kmを満たすものの他指標へ該当しないため、第2次事故ゼロプランへの追加は行わない。

■ 経過観察箇所（H30対策完了）

 指標に該当

管理	市区町村	路線 番号	対象区間(地先名)	対策 完了 年度	死傷 事故率 (R1～R4) 件/億台km	事故件数(R1～R4)								第2次事故 ゼロプラン への追加
						死傷 事故	重大 (死亡) 事故	正面 衝突 事故	車両 単独 事故	歩行者 事故	自転車 事故	二輪車 事故	高齢者 事故	
基準値					100.0	16	1	1	1	2	4	3	6	
国管理	南アルプス市	52	南アルプス市在家塚(十五所交差点)	H30	457.5	7	0	0	0	1	3	0	3	—

■ 経過観察箇所（今後評価）

管理	市区町村	路線 番号	対象区間(地先名)	対策完了 年度
国管理	上野原市	20	上野原市四方津(上野原西中入口交差点～久保交差点付近)	R1
国管理	甲府市	20	甲府市上阿原(上阿原交差点)	R1
国管理	甲府市	52	甲府市丸の内(丸の内郵便局東交差点)	R1

■ 指標③の基準値

※4年分の事故を対象

選定項目・指標		選定基準
死傷 事故 率 100 件 / 億 台 km	死傷事故	16件/4年以上
	重大(死亡)事故	1件/4年以上
	正面衝突事故	1件/4年以上
	車両単独事故	1件/4年以上
	歩行者事故	2件/4年以上
	自転車事故	4件/4年以上
	二輪車事故	3件/4年以上
	高齢者事故	6件/4年以上

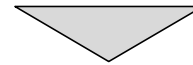
5. 今後のスケジュール

5. 今後のスケジュール

今回
(令和6年度)

委員会の経緯と今回の論点
前回委員会(第27回)の振り返り
第2次事故ゼロプランについて
経過観察箇所の評価結果

第28回委員会の開催(R6.8.22)



次回

事故ゼロプランの追加登録(交通事故多発地点等)
第2次事故ゼロプランの進捗状況の報告